KOBELCO

創りつづけてきたのは、
未来でした。

国産建機誕生、90周年。

私たちが国産初のパワーショベルを完成させたのは、1930年のこと。
それはコベルコの挑戦の歴史のはじまりでした。
それ以来、時代ごとにお客様の声に耳を傾け、新たな課題を追求し、
多くの新しい技術を生み出してきました。
コベルコは、これからもユーザー現場主義に基づき、未来へ向けて次の挑戦を続けていきます。

コベルコ建機株式会社　東京本社 / 〒141-8626 東京都品川区北品川 5-5-15 ☎03-5789-2111
www.kobelco-kenki.co.jp

コベルコ建機ニュース　Jul.2020 Vol.249 夏季号
〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15　コベルコニュース編集室 ☎03-5789-2117
www.kobelco-kenki.co.jp
コベルコ建機株式会社

KOBELCO

夏季号
Jul.2020 Vol.249

コベルコ建設機械ニュース

1930 国産初となる電気ショベル「50K」発売

1963 国産初ホイール式油圧ショベル発売

1964『P&Hニュース』創刊

1972 国産ショベルYSシリーズがデビュー

1980年代 商品ブランド戦略の始まり

1989「RK70M/RK70」発売

1993 現在のブルーグリーンを初採用

2008「RK250-7」グッドデザイン賞を受賞

2019「SK75SR-7」を発売

特集

Topics 90 ―コベルコ建機の軌跡―

90th anniversary

特集

Topics 90

コベルコ建機の軌跡

神戸製鋼が国産初の
電気ショベルを上市して今年で90年。
今回はそれを記念し、
コベルコ建機にまつわる
「90」のトピックを紹介。
黎明期から順を追って辿ってみると、
常に時代に先駆けて
オンリーワンの製品を提供し、
新たな価値創造に挑戦してきた軌跡と、
今なお受け継がれるコベルコ建機の
DNAが浮かび上がってくる。
現在、そして未来へと紡がれる
これまでの歩みを振り返ってみよう。

神保達也＝撮影（P2）
photograph by Tatsuya Jinbo

1

1930年 製品

国産初となる電気ショベル「50K」発売

昭和初期、神戸製鋼は大型船用ドッグ建設や、炭鉱の露天掘り現場における外国製パワーショベルの貢献度に注目し、国産機の開発に着手。6年の歳月をかけて初の国産建設機械として完成したのが、電気ショベル「50K」（1.5㎥）だ。新しい技術に挑戦する情熱と姿勢は、この電気ショベルから始まった。

2

1953年 製品

国産初のトラッククレーンを発売

足回りをクローラからホイールに変え、輸送性を高めたトラッククレーン「10KT」「20KT」を発売。これら国産第1号のトラッククレーンは警察予備隊へ納入された。

3

1955年 企業

アメリカP&H社と技術提携

この提携は、建機業界で1960年代から始まる海外メーカとの技術提携時代の先駆けだった。同時に独自の技術・開発を模索する大きなきっかけにもなった。

4

1963年 製品

国産初ホイール式油圧ショベル「TY45」を発売

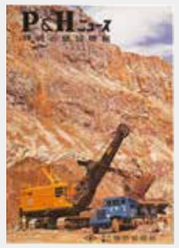
フランスのポクレン社と技術提携して製造された「TY45」。ユニークな形で、ホイール式油圧ショベルの代名詞に。2016年にレストアプロジェクトが行われ、当時の姿とともに動作もしっかりと再現され、五日市工場の正門付近に展示された。

5

1964年 製品

クローラクレーン／トラッククレーン300シリーズ発売

6



1964年 コベルコニュース

『P&Hニュース』創刊

東京オリンピックと同じ年に創刊された『P&Hニュース』。創刊当時はB5判、全32ページで構成されていた。機械の特性や構造、安全運転、教習情報など、機械情報に特化した内容。現在の『コベルコ建設機械ニュース』に至るまで名称を変えながら、PR誌として50年以上続いている。

7

1967年 製品

国産初となるミニショベルを発売

国産として初めて油谷重工がミニショベル「10A」を市場に送り出した。1963年に油圧ショベルを発売後、より小回りの利く小型モデルの市場ニーズに応えて開発された。

1967年 製品

初めて自社技術によるクローラ式油圧ショベルを発売

海外メーカとの技術提携の期間を経て、初めて独自技術で油圧化を成功させたのが「H208」である。この時期には欧米で先行していた油圧ショベルの技術が日本の市場に一気に導入された。

8

9

1969年 製品

油圧トラッククレーンTシリーズを発売

輸送性に優れたTシリーズ。13～60tまで幅広いサイズがラインアップされた。

10

1969年 製品

ラフテレーンクレーン「R150」を発売

1969年 その他

「2100BL」の完成記念を兼ねた合同結婚式を開催！

電気ショベル「2100BL」の完成記念と併せて、大久保工場で従業員3組の合同結婚式を開催。式には関係者のみ参列が許され、同僚などは立ち入り禁止だったとのこと。

11

12

1972年 製品

国産ショベルYSシリーズがデビュー

1970年代は日本メーカが独自技術で油圧ショベルを開発した時代。油谷重工オリジナルの国産油圧ショベルYSシリーズの発売が開始されたのもこの頃だった。

1973年 製品

ドイツ・リープヘル社との提携によりRシリーズが誕生

13

14

1974年 製品

国内初となる大型クレーンを発売

新幹線や高速道路の公共工事や民間のビル工事など、大型機種の能力を上回るつり上げ能力をもつクローラクレーンのニーズが高まっていた。そんな時代、国内初となる300tを超える超大型クレーン「5300」の開発に成功した。それまでの最大クレーンは127tだったため、2倍以上の能力を一気に更新したことになる。

1974年 企業

「KOBE」ブランド使用開始

神戸製鋼の自社技術による機械が開発され始めたため、新たに「KOBE」という新ブランドを使用することになった。当時の営業マンの名刺にも「KOBEの建設機械」と入れるように提案するなど、「神戸製鋼＝KOBE」と認識してもらうように努めていた。一方で、神戸市のローマ字表記と同じだったために、商標登録はできなかった。

15

1975年 技術

業界最低騒音（当時）の機械を発売

神戸製鋼の研究開発部門との共同開発で低騒音技術を開発。その技術は、オペレータや周辺環境への快適性、配慮を高めた「R904A-SS」の上市につながった。

1975年 コベルコニュース

『P&Hニュース』の誌名を変更

「KOBE」という新たなブランドを使用すると同時に、広報誌『P&Hニュース』を『KOBEニュース』と改名。ユーザへのKOBEブランドの認知を高めた。

17

1978年 海外

海外展開の第一歩となる拠点を設立

この頃から自社技術による製品開発が可能になり、神戸製鋼が独自で海外ネットワークを展開し始めた。その第一歩として、「Kobelco International (S) Co., Pte. Ltd.」をシンガポールに設立した。

18

1979年 企業

ミニチュアが「トミカ」で発売

さまざまな自動車や建設機械などのミニカーシリーズで有名な「トミカ」に、記念すべき初登場※したモデルが油谷重工社製の「TY45」。現在は超大型ビル解体専用機「SK3500D」やラフテレーンクレーン「パンサーX250」など、多くの機種が販売されている。

※編集室調べ

1979年 技術

国産初の固定式ニブラー®装着自動車解体機を開発

1977年に油谷重工がイギリス・ハイマック社との技術提携により「静破砕工法ニブラー」の開発に成功。建物解体分野に大きな足跡を残した。この工法の応用で誕生したのが、自動車解体機。それまで手ばらしで行っていた自動車解体の機械化が可能になった。その後、79年に国内で初めて固定式ニブラー®装着自動車解体機を開発し、飛躍的な作業効率を実現した。

20

1980年 企業

日本初の最新式自動システムを完備した大久保パーツセントラルを建設

大久保パーツセントラルでは、受注オーダーの即日出荷体制確立のため、オンラインリアルタイム処理を可能とするシステムを導入。発注や配送などのシステム化を推進した。

21

1980年 企業

神戸製鋼の国際統一商標を使用開始

当時、建機業界でもCI（コーポレート・アイデンティティ）やデザインへの関心が高まっており、業界認知度を向上するためにブランド名を国際統一商標「KOBELCO」へ変更。これをきっかけに事業改革がスタートした。

KOBELCO

22

1980年 コベルコニュース

『KOBELCOニュース』に名称を変更

ブランドの変更とともに、PR誌名を『KOBEニュース』から『KOBELCOニュース』に変更。ブランド価値と認知度を高める一助となった。

23

1980年代 企業

商品ブランド戦略の始まり

1980年代半ば以降、建機にもブランド愛称が定着し始めた。クレーンでは「マスターテック」や「リンクス」、ショベルでは「アセラ」や「ビートル」など、これまでに誕生した愛称は40点ほど。この戦略は商品のジャンルを特定させることができるという利点があり、商品ブランド戦略の重要なファクターとなった。

24

1980年頃 製品

異色のツインブーム仕様機を発売

異なった2つのアタッチメントを取り付けられ、1台で2台分の作業ができる「ツインブーム」仕様機が発売された。経費の削減と施工スピードアップが可能となった。

25

1981年 製品

超大型クローラクレーンを開発

国内で初めて650tつりの超大型クローラクレーン「5650」の開発に成功。石油掘削用ジャケットの組立作業で活躍した。

26

27

1981年 企業

初の海外展示会に参加

3年に1度開催される「CONEXPO」に初めて参加したのは1981年のこと。アメリカが拠点のP&H社はクレーンが本業だったため、1月に開催された「CONEXPO'81」に自社開発の油圧ショベルとホイールローダを出品した。

28

1983年 製品

現在も続くSKシリーズの誕生

神戸製鋼・油谷重工経営統合後、初の統一機種となった油圧ショベルSK-1型シリーズが誕生。その後、1989年までに3度のモデルチェンジを行った。SKとは、S（ショベル）K（コベルコ）の略称。そのほかにも、クレーンのT（テレスコ）K（コベルコ）や港湾作業で活躍するM（マリン）K（コベルコ）など、現在も続く略称シリーズを多数発売している。

1984年 製品

国内外にコベルコの名を広めた全油圧式クローラクレーン「7450」を発売

「5650」（650tつり）よりも小型化した本体と、その後部に遠隔操作可能なカウンタウエイトトレーラを連結させた全油圧式クローラクレーン「7450」。輸送コストを削減しつつ、つり上げ能力を拡大させた製品だ。

29

1985年 製品

ユーザから高い評価を受けた7000シリーズを開発

1年先行して初号機が完成した「7450」に続き、シリーズの中心機種となる「7055」（55tつり）、「7065」（65tつり）を発表。“理想的な全油圧式クレーン”の追求を掲げ、機械を構成する要素を分けて同時並行で進める「ユニット構想」と呼ばれる開発手法を確立した。

30

1985年 製品

油圧制御方式のMarkⅡシリーズがデビュー

SK-1型から大幅な改善を行ったMarkⅡシリーズが発売された。

31

1988年 製品

クローラクレーンバイオマティックシリーズの誕生

まるで生き物のように負荷を繊細に感知して、オペレータに伝える操作レバーのフィーリングが高く評価されたシリーズ。名機と言われた300シリーズの優れた点を全油圧式の機械で実現した。

34

1986年 コベルコニュース

『コベルコ建設機械ニュース』に名称を変更

『KOBEニュース』や『KOBELCOニュース』の時代は商品や技術、サービスに関わる情報を提供し、ユーザとのコミュニケーション促進を目的としており、固いイメージの内容だった。『コベルコ建設機械ニュース』に誌名変更すると同時に、事務所で働く女性もターゲットとした、新しいイメージの内容に切り替えていった。

32

1987年 製品

世界初の安全機能を装備した「SK-New MarkⅡ」を発売

旋回フラッシャや乗降遮断式ロックレバーなど、業界初となる安全装置を搭載したモデル。

33

1989年 製品

日本初の小型ラフテレーンクレーン「RK70M／RK70」発売

これまで進入できなかった狭所現場での作業を可能にした革新的な製品。縮小時のブームの長さや走行時のブームの位置の工夫により、左方視界が大幅に改善された。併せてフロントオーバーハングが短い操作性や快適性も大きく見直された。当時、爆発的に売上を伸ばし、建機業界全体に大きな影響を与えた。

35

1989年 技術

アセラシリーズで業界初のメカトロ制御技術を採用

「超高感度ショベル」というコンセプトで販売されたアセラシリーズ。メカトロ制御技術を採用したことで、複合操作などの際、作動油の流量を自動で最適化し、滑らかな操作が可能となった。

36

1989年 製品

世界最小のミニショベルを発売

「人間しか入れない現場で、人間に代わって働く重機」をテーマに開発したのが、当時世界最小のミニショベル「SS1」。下水管の交換や汲み取り式トイレの改修工事など、従来のミニショベルでさえ入れない狭所現場に対応した製品だ。当時、業界で大きな反響を呼び、一般紙までも大々的に取り上げた。

37

1989年 企業

ブルーグリーン誕生の布石となるターコイズグリーンのホイールショベル&ラフテレーンクレーンが登場

1989年に登場した「SK100W」ホイールショベルと「RK70」ラフテレーンクレーンのカラーリングは、これまでの黄色とはまったく異なるターコイズグリーンとライトグレーの組み合わせだった。目指したのは都市の街並みや人と調和したカラー。「街中では目立たず、工事現場では大いに目立つ」という相反したカラーコンセプトを追求した結果、誕生した。

38

1989年 受賞

世界最大の建機展で最優秀賞を受賞

ドイツ・ミュンヘンで行われた世界最大の建機展「bauma」にて、最もクリエイティブでセンスのある告知広告で開催に貢献したと認められ、外国企業としては唯一最優秀賞を受賞した。

39

1989年 技術

業界初となるハイリーチクレーン®の誕生

ショベルでのクレーン作業を可能にし、現場作業を大きく変えた画期的な機能。掘削だけでなく、安全につり荷作業が行えるようになり、作業効率アップを実現させた。

40

1990年 製品

クレーン・グラブ兼用船 F&G2324／2345 ファーストクラスシリーズ発売

作業速度の速さとレバー操作のレスポンスが評価された海上クレーン。そのほかにも、ブームを鋼管構造にしたことでメンテナンスの手間が削減されたことも好評だった。

41

1991年 製品

パンサーシリーズの誕生

42

従来のラフテレーンクレーンを大きく変えたのがパンサーシリーズ。コンパクト化・軽量化・乗り心地・安全性とユーザのニーズに応えた製品だ。加えて、都市景観にもマッチするコーラルグリーンのカラーを採用した。

1993年 製品

現在のブルーグリーンを初採用したアセラ・スーパーバージョンシリーズを発売

43

アセラがイエローから現在のブルーグリーンに変更された歴史的モデル。カラーリングに加え、3次元曲面デザインを採用した丸型キャブなど画期的なデザインでも話題となった。現在のICT建機の先駆けとなる、自動掘削システムや法面全自動システムも搭載するなど、コベルコの挑戦する姿勢を体現したモデル。

1993年 製品

超大型クローラクレーン「SL13000」発売

当時、最大のつり上げ能力（800t）を誇った機械。

44

1994年 海外

中国にショベル製造販売会社を設立

45

成都工程機械総廠との合弁により、成都神鋼建設機械有限公司（CKCM）を設立。KOBELCOブランドの知名度が皆無に等しい状態から、日系建機メーカの先陣を切って中国に進出した。

四川大地震（2008年）

1995年 その他

阪神淡路大震災の復旧支援

46

発生3日後にお見舞い部隊を結成し、コベルコユーザに生活物資を届けた。工場では生産計画の前倒しを行い、予想を上回る台数を復興工事用に出荷。当初5年と見込まれた神戸の復興が、およそ3年で完了した。この経験は、2008年の中国の四川大地震時にも活かされ、発生から3日後という驚異的なスピードで、ほぼ100%の生産を再開できた。

1996年 海外

東南アジアの生産拠点となる工場「Thai Kobelco Consutruction Machinery」※を設立

※現：Kobelco Construction Machinery Southeast Asia Co., Ltd.

1ドル90円と一気に進んだ円高対策のために、東南アジア域内での現地生産化と海外調達を促進。タイ・バンコクから車で1時間程度のシラチャ工業団地内に設立された。

47

1996年 製品

後方超小旋回ショベル グランビートル シリーズ開発

後端のはみ出しがほぼ車幅内（後に車幅の10%以内）となるショベル。限られた範囲の現場でも稼働が可能で、標準機並みの作業性、安定性、安全性を実現させた。

48

1999年 製品

「CK1000」「CK2500」で北米市場に本格参入

世界の100t、250tクラス機種を席巻した人気モデル。

49

1999年 製品

国際統一モデル「ダイナミック アセラ」を上市

50

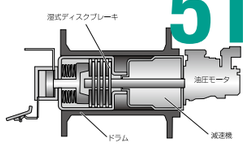
油圧ショベルの稼働現場が、欧米、東南アジアへと拡大するなか、国内と海外向け仕様を統一したモデルを開発。世界戦略構想のスタートラインだった。

1999年 技術

湿式ディスクブレーキウインチを開発

51

乾式での頻繁な巻き上げ、巻き下げによるブレーキドラムのオーバーヒートを防ぎ、繰り返し連続重作業が可能となった。以後、各種クレーンに搭載された技術だ。



1999年 企業

神戸製鋼所の建設機械部門、油谷重工、神鋼コベルコ建機が統合し、コベルコ建機が発足

52

神戸製鋼所の“選択と集中”政策の実施に伴い、建設機械部門が「コベルコ建機」として独立。分業体制を統合し、専業メーカとしての道を歩み始めた。

2000年 企業

「コベルコ・資源リサイクル会」を開催

53

国内の資源リサイクルに従事するユーザに向けて、業界の最新情報を提供するセミナーを2000年から毎年開催。リサイクル業界の発展をサポートしている。

2001年 製品

ラチスブームホイールクレーンMKシリーズ発売

54

従来のトラッククレーンは、クレーン作業と走行で2つのエンジンが必要だった。これに対し、MKシリーズは1つのエンジンで両者の作業が可能に。新たなホイールクレーンのスタンダードが誕生。

2004年 企業

クレーンビジネスのさらなる強化に向け、クレーンを専業とするコベルコクレーンを設立

55

“意思決定と行動のスピードアップ”と“経営のグローバル化”を推進し、将来のクレーンビジネス発展に向けてクレーン専業の会社として独立運営をスタート。

2005年 受賞

当時のギネス世界記録にも認定された建物解体機「SK3500D」

56

都市の再開発とともに建物の高層化・高強度化が進む一方、ビル解体作業はますます複雑に。それに伴い、安全かつ効率的に地上から解体できる大型の解体機ニーズが高まり開発が進んだ。世界一の作業高さを実現した超大型ビル解体専用機「SK3500D」。65mを超える作業高さで、“世界一ノッポなビル解体機”として当時のギネス世界記録にも認定された。

2006年 製品

従来機比燃費20%低減を実現した「ACERA GEOSPEC」を発売

57

作業・操作性を維持したまま圧倒的な低燃費を実現。それはそのままユーザのコストメリットとなり、「低燃費のコベルコ」として世界に認められた歴史的モデル。

2006年 技術

世界初のハイブリッドショベル開発に成功

58

低燃費で環境に優しい建設機械を求める新時代の技術として1999年に開発開始。2006年に世界初のハイブリッド油圧ショベル「SK70H」を発表した。2010年には量産機「SK80H」として販売を開始。同年に「平成22年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰（技術開発・製品化部門）」を受賞した。

2006年 企業

ミニショベル生産を担う大垣事業所を設立

59

1943年に設立された神戸製鋼大垣工場が前身。幾多の変遷を経て、2006年からコベルコ建機大垣事業所として再出発。現在、ミニショベルのマザー工場となっている。

2007年 企業

コベルコ建機のCSR活動を紹介する「社会環境報告書」を発刊

60

2006年から本格化したコベルコ建機のCSR活動をまとめた「社会環境報告書」の発行がスタート。年1回、18年まで継続し、以降はWebでの配信を続けている。

2007年 技術

新冷却システム「iNDr」の誕生

61

稼働を止めない快適性を目指して、防塵性能の向上と、1クラス下の低騒音を達成した新しい発想のエンジン冷却システム。メンテナンスも容易で、作業者のストレスも軽減。

2007年 コベルコニュース

『コベルコ建設機械ニュース』をリニューアル“歴史的建造物の秘密を探る!”がスタート

62

冊子サイズを現在のA4定型とし、経営者ニーズを意識した内容にリニューアル。歴史的建造物の誕生経緯を、土木・建設的側面から紐解く名物企画もこれを機に始まった。

63

2008年 受賞

ホイールクレーン「RK250-7」グッドデザイン賞を受賞

ホイールクレーン「RK250-7」は、審査員から「このサイズでありながら、街中での威圧感を軽減させる工夫がいろいろな部分で感じさせられた」と評され、2008年に受賞。また油圧ショベルの「SK70SR-2」、「SK125SR-2」も同年に受賞した。その後、建物解体機「SK135SRDLC」（2009年）、「MK650」（2015年）と続き、計5機種がグッドデザイン賞を受賞している。

65

2010年 受賞

ハイブリッドショベルSK80H、「平成22年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰（技術開発・製品化部門）」を受賞

先進的な取り組みが評価され「SK80H」が、ハイブリッドショベルとして初めて受賞。2012年には、20tクラスの「SK200H」の開発・販売も開始した。

2011年 海外

クレーン生産工場で初となる海外拠点「KOBELCO CRANES INDIA PVT. LTD.」※をインドに設立

66

※現：Kobelco Construction Equipment India Pvt. Ltd.

日米欧の移動式クレーンメーカとして初めて、インドに独資でクローラクレーンの専用工場を所有し、本格稼働を開始した。

2010年 企業

CSR活動「理科の出前授業」を開始

64

広島事業所のCSR活動として小学生を対象に、油圧ショベルを題材にした「てんびんとてこ」の授業を2010年より毎年継続して実施。14年には広島県発明協会より表彰された。

67

2011年 製品

クローラクレーンGシリーズ発売

全油圧クローラクレーン「Mastertech-Gシリーズ」は、従来機比最大25%の燃費削減を可能にする新省エネシステム「Gモード」を搭載。また、優れた輸送性能も実現した。

2011年 技術 68

安全性と使いやすさを追求した次世代アタッチメント「NEXT（ネクスト）」を発表

メインブーム兼用型の機械でポイントとなる組み立て・分解作業が、大幅にシンプル化され、安全性向上や時短効果など大きな価値を生んだ次世代解体アタッチメント。

2014年 コベルコニュース 71

『コベルコ建設機械ニュース』50周年

前身の『P&Hニュース』が創刊したのは1964年。2014年に50周年を迎えたのを記念して、誌上で「コベルコ名機選抜総選挙」を実施した。約半年間の総選挙の結果、建機部門はハイブリッドショベル、クレーン部門はパンサーXシリーズが第1位に輝いた。また、記念号の“歴史的建造物”企画に掲載した「富岡製糸場」が発行直後、世界遺産に認定された。

2012年 企業 69

GEC（グローバルエンジニアリングセンター）および五日市工場開設

開発・生産・調達が一体となったグループ横断的な組織機能GEC。生産効率を極限まで追求した広島市の五日市工場は、2013年日経ものづくり主催「強い工場アワード」で優秀賞を受賞した。

2014年 その他 72

KOBELCO × G-SHOCKの初コラボモデルを発売開始

2014年に第1弾を発売開始し、シリーズ累計で4,000個を超える販売を記録した人気商品。第3弾はベースモデルにG-SHOCKの原点であるDW-5600を使用し、ブランドカラーであるブルーグリーンを採り入れ、オリジナルのスチール缶に入った特別な仕上がり。20年11月には90周年記念版の発売も予定している。

2015年 企業 73

動画配信サービス「YouTube」コベルコ建機チャンネルを開設

コベルコ建機の新製品や現場で活躍する建設機械、ユーザの声をお届けする動画配信をスタート。配信動画数は現在140本を超える。2020年にはSNSのTwitter、Instagramの公式アカウントも開設した。

YouTube
コベルコ建機
株式会社【公式】

2013年 企業 70

コベルコ「カーボン・オフセット」プログラムがスタート

地球温暖化防止や森林整備への地道な取り組みが評価され、2015年に3省庁が後援する『第5回カーボン・オフセット大賞』にて、農林水産大臣賞を受賞。18年には東北経済産業局による『第3回東北地域カーボン・オフセットグランプリ』にて、東北支援賞を受賞した。

2016年 企業 74

コベルコクレーンとの経営統合による新生コベルコ建機が誕生

より一層の事業基盤の強化と、グローバル展開の加速を図るために、分社化していたコベルコクレーンと経営統合。総合建設機械メーカとして新たなステージへと歩みを進めることに。

2016年 海外 75

北米に油圧ショベルの工場を設立

北米工場稼働により、北米ユーザ向けの生産リードタイムの短縮、市場ニーズへの対応力を強化。クロスソーシングが拡大し、グループ全体での最適生産体制構築が可能となった。

2016年 製品 76

グローバルモデルGeneration10シリーズを発売開始

25t、33t、47tの3クラスの新機種では、燃費改善の取り組みに加え、耐久強度も大幅に向上。全機種に新エンジンを搭載し、オフロード法2014年基準もクリアした。

2016年 技術 77

機械故障を未然に防ぐ予防保全システム「K-SCAN」

問題が起こる前に最善の対応を図ることで耐用性を高め、安定稼働をサポートするコベルコ独自のIoT（Internet of Things）を駆使した予防保全システムが誕生。

Kスキャン

2016年 製品 78

リチウムイオンバッテリーを搭載したハイブリッドショベル「SK200H-10」発売

大型の発電電動機を大容量のリチウムイオンバッテリーで駆動させ、エンジンを継続的にアシストし、負荷を大きく軽減。旋回・掘削・走行時のパワーと低燃費を高次元で両立した。

2016年 技術 79

ICTトータルソリューション「ホルナビ」発売

文字通り“掘る”を“ナビ”する、コベルコのICT施工のトータルソリューション。測量機器メーカをはじめとしたパートナー企業とともにワンストップでサポートする。

ホルナビ

ホルナビ +PLUS

2016年 技術 80

最先端のハイブリッドショベル技術を融合させた先進マグネットシステム「eマグ」を発売

1979年日本初となる自動車解体機を開発以来、長年にわたり蓄積されたマグネットシステム技術と、最先端のハイブリッドショベル技術を融合させた先進マグネットシステムを発売した。

2016年 製品 81

最大つり上げ能力1,000t超。国産最大級を誇る「SL16000J」「SL16000J-H」を発売

日本国内の需要に合わせて誕生した国産最大級のクローラクレーン。国内の輸送規制に配慮してユニットをコンパクト化することで、効率的な分解・輸送性能を実現した。

2017年 企業 82

ICT建機のメリットを体験・実感できる仮想現場、「ホルナビジョブサイト」を開設

ICT施工に関わる各種技能の習得とホルナビを体験できる施設が、「ホルナビジョブサイト」。高松を皮切りに、現在では新潟、中部、神戸、広島、小倉の全6カ所に展開。

2017年 製品 83

新型TK-Gシリーズとなるテレスコピッククローラクレーン「TK750G」発売

基礎土木に耐え得る頑丈な構造と高いつり上げ能力に加え、これまでにないコンパクトレイアウトを実現。「TK750G」に続き、2018年には「TK550G」をリリースした。

2017年 技術 84

建機業界初の衝突軽減システム「K-EYE PRO」を開発

人や障害物を検知すると自動で減速・停止する、建機業界初の衝突軽減システム。建設現場における事故の6割を占める「挟まれ」「ひかれ」事故発生の抑制に有効な新技術となっている。

2018年 企業 85

広島大学に「コベルコ建機夢源力共創研究所」を設置

2015年から広島大学との共同研究が始まり、18年4月に学内に研究所を立ち上げた。この取り組みは同大学の「民間企業等外部機関の研究所制度」の第1号となった。

2018年 コベルコニュース 86

『コベルコ建設機械ニュース』がリニューアル

コベルコ建機の技術・サービスとユーザニーズの納得性あるマッチングを目指してリニューアル。時代を反映する特集を設定し、読み応えある誌面作りを心がけている。

2019年 製品 87

大幅なモデルチェンジとなる「SK75SR-7」を発売

「SK75SR-7」は、油圧ショベルとして求められる効率や生産性を追求するとともに、機械の機能性・オペレータの快適性といった新たな視点に真摯に向き合い、それらを大幅に向上させたフルモデルチェンジ機。“Performance × Design”をコンセプトに、堅牢かつ先進的な外観と、上質感漂うインテリアを兼ね備え、まったく新しい価値観を実現した後方超小旋回油圧ショベルだ。

2019年 企業 88

国内販売会社「コベルコ建機日本」が誕生

コベルコ建機誕生と同年、1999年に既存の11販社から5販社体制となり、2009年から東日本、西日本の2社体制へ。19年に国内販社を統合し、コベルコ建機日本として新たなスタートを切った。

2019年 技術 89

日本マイクロソフトとの協業による次世代遠隔操作システム「K-DIVE」を発表

次世代の通信規格5Gなどに対応し、マシンを遠隔操作できるシステム「K-DIVE」。遠く離れた、あるいは過酷な現場へ移動することなく、複数の現場作業の実現を目指すべく開発中。

K-DIVE CONCEPT

2020年 企業

国産機械90周年

神戸製鋼が1930年に国産初の電気ショベル50Kを発売してから、90年。それ以来、時代ごとにお客様の声に耳を傾け、新たな課題を追求し、数多くの新しい技術を生み出してきた。それはまさにコベルコ建機の挑戦の歴史でもある。これからも「ユーザー現場主義」にもとづき、100年そしてその先の未来へ向けて、さらなる挑戦を続ける。

90th anniversary

File.52 歴史的建造物誕生の秘密を探る！

玉川上水［東京都］

首都に寄り添う上水道

江戸開幕以来、増え続ける人口に伴い高まっていたのが水の需要。
大量の飲料水をどこで確保し、どう市中へ導くか。
その問いの答えが「玉川上水」だった。江戸時代初期の水利技術を今に伝える
貴重な土木遺産にして、現役の水道施設であるこの導水路はいかにして造られ、
どのような恩恵をもたらしたのか。その軌跡に迫る。

砂山幹博＝取材・文　田中勝明＝撮影
text by Mikihiro Sunayama　photographs by Katsuaki Tanaka

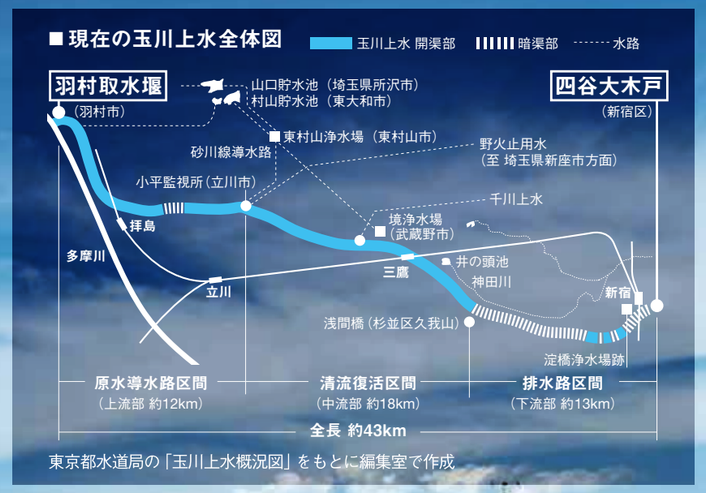
江戸の危機を救った多摩川の水

海沿いの低湿地を埋め立てて土地を広げてきた江戸にとって、最大の問題は飲み水の確保だった。井戸を掘っても塩分の強い水が出るため、江戸の町には早くから上水道が整備された。そんな水事情に再び危機が訪れる。

1635年に参勤交代が制度化されると、各藩の大名やその家族、家臣らが江戸に住み始めたことで人口が急増。井之頭池（現・井の頭池／東京都武蔵野市・三鷹市）などを源泉とする神田上水といった既存の上水だけでは水が足りず、新たな水源の開発が急務に。このとき着目されたのが、江戸の北西から現在の東京湾に向かって南東へ流れる多摩川だった。

多摩川の水を江戸へ引き入れる工事が始まったのは1653年4月。8カ月後の同年11月に（閏月で6月が2度あった）、羽村取水口（東京都羽村市）から四谷大木戸（東京都新宿区）に至る総距離約43kmの導水路「玉川上水」が開削された。

水路は側面を土留めしない素掘り。標高差で水を流す仕組みだが、起点から終点までの高低差が92m、これは100m進んでも21cmしか低くならない非常に緩い勾配の水路であった。武蔵野台地の稜線（山の最も高い部分の連なり）からルートを厳選しなければ実現は不可能なうえ、単純計算で1kmを約6日間で掘り進めるという驚異的なスピードで完成していることからも、綿密な計画のもとに工事が行われたことは間違いない。工事を請け負ったのは、土木工事に秀でていたという庄右衛門、清右衛門の兄弟。完成後に



東京都水道局の「玉川上水概況図」をもとに編集室で作成

4本の橋脚をもつ可動堰とコンクリートを盛り上げてつくった固定堰で多摩川の水をせき止め、第一水門（写真右側）へと引き込む羽村取水堰が玉川上水の起点

1.第一水門に引き込まれた水量を調整し、適量を玉川上水の導水路（写真奥）へと流す第二水門　2.可動堰は、橋脚の間に鉄の桁を渡して丸太を立て、投渡木（なぎ）と呼ばれる横架材を支える珍しい形式で、投渡（なげわたし）とも呼ばれる

四谷大木戸まで導かれた水は地下に張り巡らされた石や木でできた樋（とい）を通って江戸中に配水された。写真は木製の「木樋」（写真提供：東京都水道歴史館）

1.1791年頃の羽村の取水口付近（『上水記』第2巻「玉川上水水元絵図並諸枠図」より）。取水口（絵の左下）一帯に配置された水の流れを制するための構造物の位置関係と種類がよく分かる（資料提供：東京都水道歴史館）　2.『上水記』の絵図にも描かれている牛枠（うしわく）。三角錐の形に組み合わせた木材に、石を詰めた籠を取り付け川に固定する伝統的な治水装置。水の勢いを和らげて堰を防御した

File.52

歴史的建造物誕生の秘密を探る！

現役の導水路として活用されている玉川上水の上流部。流れに沿って緑道が整備された場所も多く、自然豊かな環境を創出している

褒賞として玉川の姓を賜り、玉川上水の管理と修理を任されている。

四谷大木戸まで引かれた多摩川の水はその後、地下に埋設された石樋（せきひ）や木樋（もくひ）といった配水管を通って江戸の人々のもとへと届けられた。市中への通水が始まった1654年6月をもって玉川上水は完成をみた。

現在も機能し続けるライフライン

川が大きく蛇行して水流が弱くなる河口から約54kmの地点、堰（せき）を築けば効率よく水を導ける場所に取水口は設けられた。現在、その場所にある羽村取水堰は1911年にコンクリートでつくられた施設だが、取水の仕組みは同じ場所にあった創建時の木製の堰とほぼ変わっていない。

取水の仕組みはシンプルだ。川の中ほどまで伸びる左岸側の可動堰と、コンクリートで築かれた右岸側の固定堰でせき止められた水は、第一水門をくぐり抜ける。次の第二水門でその先の導水路へ流す水量を調節。余分な水は小吐（こはき）水門から多摩川へ戻される。

可動堰を設けたのには理由がある。固定堰だけでは、水位が上昇した際に水の力が第一水門に集中して決壊する恐れがある。これを防ぐために、堰の機能を一時的に解除して水の勢いを受け流す可動堰を加えた。台風など有事の際には、丸太や束ねた木の枝、砂利など壊しやすい材料でできた堰を払った。そうすることで玉川上水に濁流が流れ込むことを防いだ。自然に抗わない柔軟な発想にもとづく治水技術が、江戸時代から変わらず今日まで受け継がれている。

多摩川から東に広がる広大な武蔵野台地の開発にも、玉川上水は一役買っている。水路が台地の高所を通っていたため、流域へ広く分水することが可能だった。1655年に現在の小平監視所（東京都立川市）付近から野火止（のびどめ）用水を分水したのを皮切りに、1791年までの間に33にもおよぶ分水路を設けたことで、水の乏しい台地の隅々にまで水が行き渡った。武蔵野の田園風景の多くは玉川上水があってこそだと知れば、景色の見え方も変わってくるだろう。

姿や役目は変わっても水の流れは途絶えず

明治維新で江戸が東京に変わっても、玉川上水は変わりなく水を送り続けていたかに見えた。が、水路にふたがされていない開渠（かいきょ）（露天掘り）であったうえ、地中の木樋も腐食が進み水質が悪化。東京でコレラが流行したこともあり、浄水場で原水を濾過する近代水道を求める声が強くなった。

1898年に近代水道施設である淀橋（よどばし）浄水場（東京都新宿区）が完成すると、玉川上水から導かれた水はここで浄水処理をされ、都心へ送られるようになった。鉄管による加圧給水が導入され、従来の流れに任せる方法では水を送れなかった高所への配水も可能に。明治の末ごろまでに都心の広い範囲に水が行き渡ることになった。

昭和30年代まで水源の多くを多摩川に依存してきた東京都だったが、高度経済成長と足並みをそろえるように人口増加が加速。またもや新たな水資源の開発に迫られた。今度の水源は東京の北側、利根川水系である。

東京五輪の翌年の1965年から、本格的に利根川からの導水が始まった。時を同じくして淀橋浄水場が廃止されたことで、都心へ多摩川の水を送るという開削以来の玉川上水の役目は終わった。それでも、玉川上水の水は流れ続けた。小平監視所から東村山浄水場（東京都東村山市）へ送られていた水が、引き続き利用されるためだ。羽村取水堰で取水されたこの上流域の水は現在も水道用水として利用されている。

一方、送水が止まった小平監視所より下流は、水路が空堀の状態、あるいは暗渠（あんきょ）（地下水路）化され道路や公園になった。都市からせせらぎが消えると今度は、水の流れのある景色を取り戻したいという機運が高まってくる。地域住民の要望は清流復活事業へとつながり、1986年から小平監視所―浅間橋（東京都杉並区）間でオゾン処理を施した再生水の送水を開始。一度は消えた水と緑の空間が蘇った。

思えば、江戸や東京が町として発展する過程を、玉川上水はずっと見守ってきた。「今度は我々が見守る番」と、玉川上水の整備保全を担う東京都水道局はその労に感謝の意を示す。2009年から地元自治体などと連携して計画的に整備保全を進め、貴重な土木施設で国の史跡でもある玉川上水を後世に継承する取り組みを行っている。

あまりに身近すぎるせいで、私たちは水が存在することのありがたさをつい忘れがちだ。しかし、その背景には多くの人々の想いや重ねた苦労があることだけは間違いない。

コベルコ建機公式Instagramでは、「歴史的建造物誕生の秘密を探る！」の再編集記事をはじめ、さまざまな情報をお届けしています。ぜひ、フォローしてご覧ください。

【公式】コベルコ建機
kobelcokenki_official

座ったままでもカンタン!!

血流を促す 免疫力アップ エクササイズ

オペレータの仕事やデスクワークでありがちなのが、“座りっぱなし”になること。
実は、長時間座り続けることは免疫力の低下をはじめ、体にさまざまな悪影響をもたらしてしまう。
これを回避する簡単なエクササイズを、早稲田大学スポーツ科学学術院非常勤講師の荒木邦子さんに伺った。

「座りすぎは病気のリスクと隣り合わせ」だと、スポーツ科学を専門とする荒木邦子さんは警鐘を鳴らす。例えば「1日に8時間以上座っている人は、4時間未満の人に比べて死亡リスクが約20%高まる」という報告や、「座ってテレビを1時間見続けると平均余命が22分短くなる」という研究データ※1もある。

では、なぜ座りすぎが寿命を縮めるのか。「筋肉を動かすと中性脂肪を分解するリポタンパクリパーゼがはたらき、糖代謝が行われます。一方、座位状態が続くと脚の筋活動が行われず糖代謝が低下したり、太もも裏の圧迫や股関節の屈曲で血流が悪化し、高血圧や脂質異常などを引き起こします。これらは肥満や糖尿病、心血管疾患などのリスクを高めることにつながります」（荒木さん）

また、筋活動がないと体温が上がらず、免疫力も低下する。“座りすぎ” の解消には、頻繁に立ち上がることが大切。今回は荒木さんに座ったままでもできる運動を紹介してもらった。

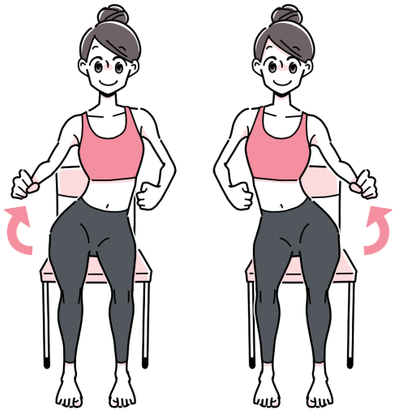
※1 岡 浩一朗など著『座位行動の科学ー行動疫学の枠組みの応用ー』P143
https://www.jstage.jst.go.jp/article/kenkokyoiku/21/2/21_142/_pdf

荒木邦子さん

スポーツ科学博士、早稲田大学スポーツ科学学術院非常勤講師。専門分野は「ヘルスプロモーション」「運動指導方法論」「介護予防プログラム開発」。健康づくり・自治体介護予防プログラム開発と普及マネジメント支援、自治体との協働による地域活性化にも従事

Step 1 3つの運動で体をほぐす

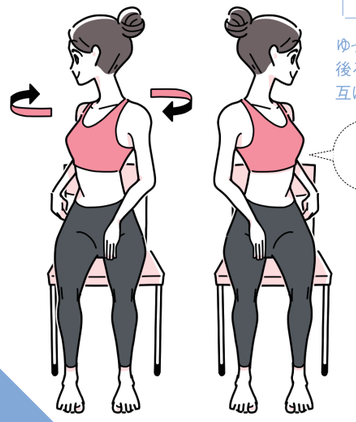
「お尻上げ」「上体ひねり」「前かがみと上体反らし」の3つは、立ち上がるのが困難な要介護高齢者の座りすぎを解消するために考案されたエクササイズ。荒木さんによると、これらの運動を行ってから立つ、という一連の動作を午前中に1回、3カ月間継続した結果、血行が促進され、立ち上がりやすい体になったという研究データ※2もある。時間に余裕がないときは、この3つの運動だけでも実践したい。



お尻上げ

お尻を左右交互に上げて、脇腹を締める。左右あわせて8回程度

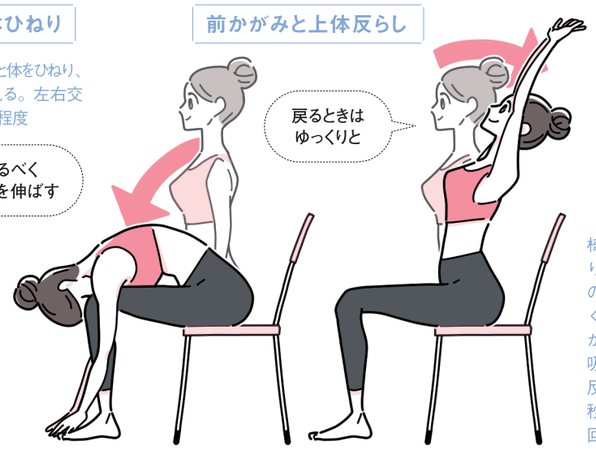
頭を動かさず
お尻だけ上げる



上体ひねり

ゆっくりと体をひねり、後ろを見る。左右交互に8回程度

なるべく
背筋を伸ばす



前かがみと上体反らし

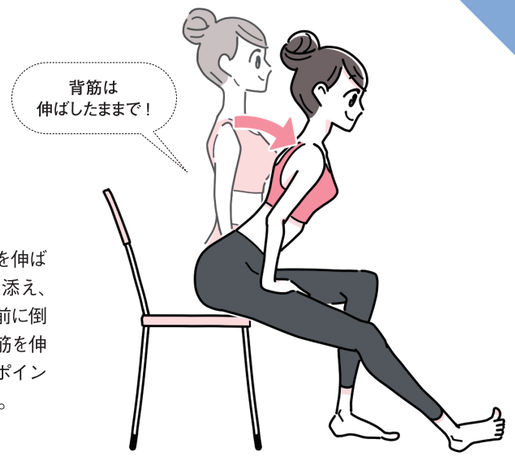
戻るときは
ゆっくりと

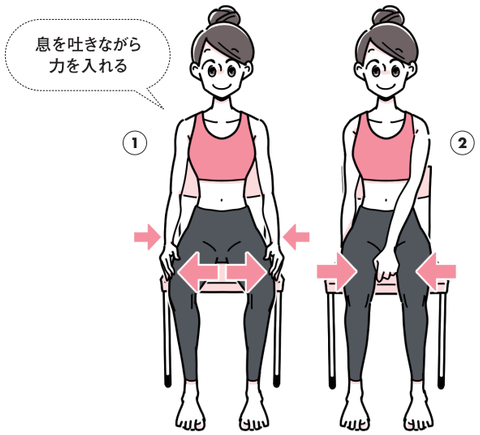
椅子に浅めに座り、それぞれもとの状態から、ゆっくりと息を吐きながら前かがみに、吸いながら上体を反らす。交互に5秒ぐらいずつ、4回程度

※2 荒木邦子ほか『通所型デイサービスを利用する要介護高齢者の座りすぎ軽減プログラムの効果』介護予防・健康づくり研究（2020年7月発行予定）

Step 2 太もも裏を伸ばす

座りすぎで圧迫されがちな太もも裏をストレッチすることで、効率よく血流を促すことが可能。できれば、1時間に1回は太もも裏を伸ばそう。椅子に浅めに座る。片脚を軽く伸ばし、かかとをつけてつま先を上に向ける。背筋を伸ばし、太ももの付け根に手を添え、息を吐きながら上体を軽く前に倒す。深く倒すことよりも背筋を伸ばし骨盤を前傾させるのがポイント。左右8～10秒程度ずつ。





Step 3 太ももの内側・外側を刺激

座りっぱなしは筋活動が行われない状態のため、「糖代謝が上がらない」「下肢から上肢に血液が流れない」などといった弊害が起きる可能性が高くなる。太もものような大きな筋肉を刺激することで、座りすぎによるダメージを予防できる。

①
太ももの外側：膝付近に手を添えて、外側から押す力と脚を開く力で押し合う。息を吐きながら5回程度

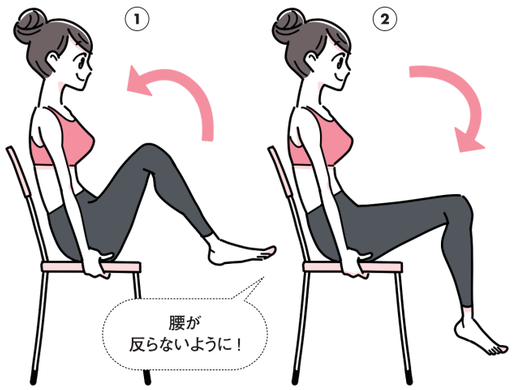
②
太ももの内側：握りこぶしを膝と膝の間に入れる。太ももの内側に力を入れ、両脚で握りこぶしをはさむ。息を吐きながら5回程度

Step 4 片脚上げで股関節まわりを動かす

座った状態が続くということは、股関節が90度に屈曲した状態が続くということ。簡単な運動で固まった股関節をほぐそう。膝を曲げたまま1、2でゆっくり上げ、3、4でゆっくり下ろす。浅めに座って行うと、腹筋に力が入りやすくなる。左右交互に10回程度。

Step 5 両脚上げで腹筋を刺激

体の状態に余裕があるときは、腹筋にも刺激を与える少し強度の高いエクササイズを。Step1で紹介した「お尻上げ」「上体ひねり」「前かがみと上体反らし」などの運動で、腰まわりの緊張を緩めてから行いたい。



①
やや腰を丸めながら、両脚を1、2、3、4で上げる

②
5、6、7、8のリズムで下ろす。その際両脚を高く上げる必要はなく、腹筋を意識することが大事。また、腰を反らせてしまうと腰を痛める原因になるので注意する

後藤かおる＝取材・文　いしかわひろこ＝イラスト
text by Kaoru Goto ／ illustrations by Hiroko Ishikawa

あなたのコベルコ建機との思い出をぜひ、投稿してください！

パソコンやスマートフォンでお気軽にどうぞ！

コベルコ建機 90周年記念QUOカード（500円分）を抽選で100名様にプレゼント！

応募方法

特設サイト内にある「応募する」ボタンをクリックし、専用応募フォームから投稿ください。

https://www.kobelco-kenki.co.jp/pickup/90th/mykobelco/

- 専用応募フォームにて必要事項をもれなくご記入いただき、画像を添付のうえご応募ください。
- 応募は専用応募フォーム（パソコン、スマートフォン）からのみお受けします。
- 写真はJPEG形式で5MB以内でお送りください。
- 応募完了時および投稿した内容がキャンペーンサイトにアップされた時に完了メールが送信されます。「@smartcross.jp」の受信可能設定をお願いいたします。

注意事項

○機械保有者や人物の撮影許可が取れている写真のみお送りください。○ご応募いただく写真は、撮影許可が取れている写真として扱います。○ご応募いただいた写真に対し万一トラブルが発生した場合でも、当方は一切の責任を負いません。○お一人様何口でもご応募できます。○本キャンペーンの応募は、日本国内在住の方に限らせていただきます。○当選者の発表は、景品の発送をもって代えさせていただきます。○景品の発送は応募締切後1～2カ月を予定しておりますが、諸事情により多少遅れることがございます。

※展示会やイベント等に出展されたコベルコ建機製品の撮影許可は不要です。
※その他の注意事項に関しましては、特設サイト内をご参照ください。
※賞品の発送業務については、業務委託先に対して個人情報を提供して実施することがありますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

風

［コベルコの風］

日本全国、そして世界各国でのコベルコの活動をリポート！

Wind 1 from 愛知・沖縄 Aichi Okinawa

秋の大展示会の開催に向けて

毎年多くのお客様にご来場いただき、コベルコ建機の製品を間近に体感していただけるコベルコ建機日本の展示会が、中部エリアと沖縄で開催に向けた準備を進めています。最新のICT建機をはじめ、さまざまな実機の展示やデモンストレーションなどの企画を予定しています。

過去に開催された展示会の様子（上／中部エリア、下／沖縄）

※各展示会ともに新型コロナウイルスの影響により、開催が延期または中止となる可能性がございます。あらかじめご了承ください。

開催概要

中部展示会	2020年 10月10日（土）・11日（日）	コベルコ建機日本 中部支社 愛知県東海市南柴田町ハノ割138-18 052-603-1201
沖縄展示会	2020年 10月24日（土）・25日（日）	コベルコ建機日本 九州支社 沖縄営業所 沖縄県うるま市勝連南風原5193-49 098-923-3334

Wind 2 from コベルコ建機 Kobelco

コベルコ建機 公式Twitter始めました！

すでに公開を開始した公式Instagramに続いて、2020年6月1日にコベルコ建機公式Twitterを開設しました！　Twitterでは、製品の魅力やイベント情報、コベルコ建機の歴史のほか、ホームページや会社案内などには載っていない面白エピソードが投稿されることも!?　ぜひフォローしていただき、コベルコ建機のツイートを楽しんでください！

【公式】コベルコ建機
@kobelcokenki

Wind 3 from コベルコ建機 Kobelco

90周年限定 オリジナルタンブラーを販売！

90周年を記念して、オリジナルロゴが入った限定仕様のKINTO製トラベルタンブラーを発売します。真空二重構造で優れた保温保冷効果を発揮し、耐久性が高いタフな素材を使用。長年愛用できるシンプルなデザインで、暑い真夏の水分補給や厳しい寒さ対策など、さまざまな現場で大活躍すること間違いなしです！

飲み口は口当たり良く、360度どこからでも飲むことができる設計に。500mlサイズ、4,312円（税込）

お買い求めはこちらから

読者の広場

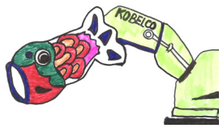
Fun! Fan! コベルコニュース

コベルコニュースへのご意見や、
身のまわりで起こったあんなこと、こんなこと。
さらに自慢のイラストやすてきなお写真など、
読者の皆様からのご投稿をご紹介します!

コベルコ建機の先進技術に驚き！

人手不足で頭を悩ませている昨今。チルトローテータ搭載機SK135SRを知り、コベルコ建機の先進技術に驚きました。若い人もこのようなICT化には、とても興味を示してくれるだろうと、光が見えた気がしました。昨年秋の信濃川大氾濫の影響で今は人手不足のピークです。こんな重機があったのかと興味をそそられました。

新潟県　匿名希望



千葉県　匿名希望

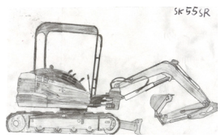
東北ボランティアでも活躍！

いろいろな機械の紹介など毎号楽しみにしています。特に歴史的建造物には興味があるのですが、小岩井農場のことはよく知らず、前回の記事を読む前に訪れた際、素通りしてしまいました。もう一度訪れたいです。

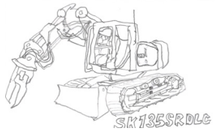
ボランティア活動で東北へ行くと、コベルコカラーの重機をよく目にします。以前は他社機が多かったのですが、最近はコベルコの機械が増えたように思います。ボランティア参加者からも、コベルコ建機の話が出るとうれしくなります。

兵庫県　岡田憲二さん

栃木県　匿名希望



愛知県　匿名希望



新潟県・(株) 中央建設
梅田海生さん

災害復旧現場でコベルコ建機が活躍

昨年の台風19号によって河川が決壊した現場で作業しているコベルコ建機のバックホウを見かけました。復旧現場や工事現場など、さまざまなところで活躍していて、素晴らしいと思いました。

会社で使用しているバックホウのトラブルにも迅速に対応していただいており、とても感謝しています。これからもよろしくお願いします。応援しています！

群馬県・ランドスタイル (株)
石山清隆さん

新潟県　匿名希望

兵庫県・コベルコ教習所 (株)
明石教習センター
宮本 薫さん

日常が戻ることを願って

コベルコ建機の営業さんには車で片道3時間の距離をほぼ毎月、顔を出していただいていました。他メーカでは、そのような方はいないです。コロナの影響で来ていただくことはできなくなりましたが、1日でも早く平穏な日常が戻ることを願っています。皆さま、ご安全に。

兵庫県・サコス(株)豊岡営業所
小谷 誠さん

今年は残念ながら……

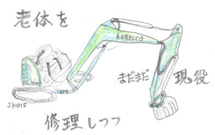
毎年5月に開催される「建友会」で懐かしい面々に会えるのを楽しみにしていたのですが、今年は残念ながら中止に……。自宅でゆっくりコベルコニュースを読ませていただきます。今後も楽しみにしています！

兵庫県・神鋼不動産
ジークレフサービス (株)
小谷 恵さん

自然災害にも負けない機械を

機械の進歩に挑戦するように、自然災害も今まで経験したことがないものばかり。扱う人間も大変でしょうが、災害により悲しんだり、苦しんだりする方が一人でも少なくなるよう、自然災害に負けない機械づくりをお願いします。

北海道　匿名希望



埼玉県　武井澄雄さん

楽しいイラスト、すてきなお写真大募集！

読者の広場は皆様からの投稿で構成しています。本誌への感想や、身近で起こったできごとなど、お気軽にお寄せください。また、同時にイラストやお写真も募集しています。採用された方には、すてきなプレゼントを進呈いたします。ぜひご投稿ください。メールでのご投稿もお待ちしております。

※メールには、会社名、所在地、電話番号、氏名、匿名希望の方はその旨を必ずご記入ください
※ご投稿いただいた内容は、本誌以外のHP、Twitterなどで掲載させていただく場合があります。予めご了承ください

Kobelconews-shm@kobelconet.com

Webサイトもご覧ください！

コベルコ建機Webサイト内の「Fun！Fan！ コベルコ建機」ページでは、建機のペーパークラフト・ぬりえなどのダウンロード、グッズのオンラインショップなど充実のコンテンツをお楽しみいただけます！

PRESENT

［プレゼント］

クロスワードパズル正解者の中から抽選で次の商品を進呈いたします。ふるってご応募ください。

※当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます

6名様

A賞

SK30SR-6ミニチュア

ブーム、アームの左右スイングやブレードの上下も実機同様の可動を再現。キャブとキャノピーの仕様は、マグネット式で簡単に交換が可能です

1名様

B賞

地震対策30点避難セット

災害時のための避難セット。実際の被災者の声をもとに、防災士が厳選した30種類のグッズを収納。火や水に強く、汚れにくい素材を使った持出袋のデザイン性も魅力です

5名様

C賞

となりのトトロ 野菜シリーズ 11cm ボウル（5個セット）

玉川上水が流れる三鷹市の人気スポット「三鷹の森ジブリ美術館」。そんなスタジオジブリとノリタケカンパニーリミテドが共同製作したボウル。ナスやトマトなどのみずみずしい野菜がトトロたちと一緒にあしらわれています

CROSSWORD PUZZLE

［クロスワードパズル］

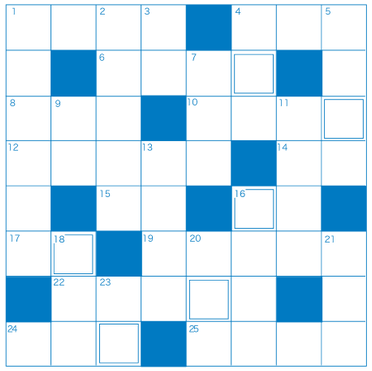
タテ・ヨコのカギをヒントにマス目を埋めてください。
二重マス目の文字を並べ替えてできた言葉を
専用はがきの解答欄（または、はがき）にご記入ください。

- ご応募の締め切り: **2020年8月29日**（消印有効）
- あて先: 〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15 大崎ブライトコア5F
  コベルコ建機（株）コベルコニュース編集室

Web応募フォームを開設しました。今後はPC・スマホからもお気軽にご応募いただけます！

https://www.kobelco-kenki.co.jp/inquiry/knews/index.php

※ご記入いただいた個人情報は、当選者へのプレゼントの発送と読者の投稿ページへの掲載以外の目的では使用いたしません



タテのカギ

1 防音壁と肖像画がある教室
2 芸道分野で先生の代わりに教える人
3 「安○、快○、極○」○に入る漢字の読みは?
4 忙しいときや、イライラしているときになくなる
5 火事の現場などに、どこからともなくやって来る無関係な人たち
7 秋から冬にかけ、降ったり止んだりする小雨
9 ヒラメやカレイの数え方
11 多摩川の水はここをくぐって玉川上水へ送られる
13 英語では、two years ago
16 自信がなくて尻込みする
18 ウイルスの感染対策。手洗いと……
20 1位、トップを表す言葉
21 野球チームをこう呼ぶことも
23 十字路のこと

ヨコのカギ

1 お食い初めには、鯛の何付き?
4 玉川上水の終点。○○○大木戸
6 勝者に送られる万雷の○○○○
8 堪忍袋の緒が切れたとき、限界に達したのはなに?
10 2で割り切れる
12 大阪の代名詞。○○○○○の町
14 家の中で、家族がくつろぐ部屋
15 縦、横、生、毛、たこ、釣り……
16 何事にも動じないこと。○○が据わる
17 ある領域の趣味や道楽に詳しいこと
19 生まれた年と同じ干支を迎えた女性
22 部活やゼミ、運転免許でおなじみ
24 ノー残業デーだから○○○であがる
25 サッカーチームをこう呼ぶことも

ヒント: アニバーサリー、節目

答え:

Vol.248 クロスワードパズル 正解発表

ア	テ	サ	キ	■	ア	ガ	キ
ズ	■	ワ	イ	ナ	リ	ー	■
マ	ツ	リ	■	ナ	ア	ナ	ア
ヤ	ポ	■	ハ	シ	ケ	■	ル
■	ミ	ジ	ン	■	カ	ガ	ミ
ラ	■	ヨ	コ	バ	イ	■	ニ
イ	シ	ソ	ツ	ウ	■	ノ	ウ
チ	ソ	ウ	■	ム	ス	リ	ム

正解は「コイノボリ」でした。
多数のご応募ありがとうございました。

Wチャンスのお知らせ

Vol.247～Vol.249にお寄せいただいたすべてのはがきを再抽選、50名様に記念品をプレゼントいたします。パズルへのご応募のほか、ご投稿、ご意見など、どうぞお気軽にお寄せください。

※当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます

編集後記

今回は特集ページ（P2）の撮影舞台裏を少しお見せします。右下の写真は配置に悩み抜いているところですね。マスク着用＆ソーシャルディスタンスを保ちつつ、撮影に臨みました！　小道具もいくつか用意したのですが、ショベルやクレーンのスケールと合っていないことや、東京タワーとスカイツリーが並んで建っているところがポイントです。（T.H）

コベルコ建設機械ニュース 夏季号　2020年7月 Vol.249
発行：コベルコニュース編集室
企画・編集：日経BP ／日経BPコンサルティング／リミックス